

MULTIPLEX

SOLIUS KIT/RR 組立て補助説明書

※当説明書はキットに同梱されている各国語版の説明書のイラストを参照しながらお読みください。
各国語版の「GB」のページ(P12～21)が英語表記です。イラストは、(P28～33)です。

この度はマルチプレックス社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。ラジコン飛行機は取り扱いを誤ると本人、及び他人に危害を及ぼす可能性がある事を忘れずに最大限の注意を払い、飛行をお楽しみください。また必ずラジコン保険に加入し、万一の事故に備えてください。

警告 注意 安全のための確認

- 1)本機体は安定性の高い機体ですが、全くの初心者の方の単独飛行は困難です。
必ず経験者の指導のもとに機体の点検と飛行練習を受けてください。
- 2)各フライト前には必ず各部を慎重に点検してください。
モーターとプロペラの取り付け、翼の取り付け状態、重心位置の確認、各舵の動作状況、無線機のチェック等、安全に配慮した機体の点検を怠らないでください。特に飛行場に到着した時や激しい着陸の後は翼がズレたり搭載物が移動している可能性があります。
- 3)動力用のバッテリーを接続する前に必ず送信機のスイッチをONにし、スロットルコントロールスティック等がOFF状態にある事を確認してから機体側の動力用バッテリーを接続してください。
上記の手順を守らなかった場合、バッテリー接続と同時にモーターが回転してしまい危険な状態になります。
モーターのスピードコントローラーの取り扱いにも熟知しておいてください。
- 4)機体を持つ時は受信機スイッチのON-OFFに関わらず、プロペラに触れないように保持してください。
突然のプロペラの回転に注意してください。
- 5)機体を手投げする時は人に向けてはいけません。人を背後にした向きで手投げしてください。
飛行中は人や建物、動物に向けて飛行させてはいけません。
- 6)飛行後のモーターは高温になります。必ずモーターが冷えてから次の飛行を行なってください。
熱いうちに飛行させますとモーターの寿命が短くなり、パワーが低下します。
モーターの温度を確かめるときは火傷に注意してください。
- 7)当製品の性格上、フライトにおける損失・事故等には一切保障を致しかねます。
- 8)当製品は製品の性質上、飛行後における初期不良はお受けすることができません。

●キット内容物のチェック

各国語版の説明書P28のパーツリストに沿って欠品がないかご確認ください。
もし欠品や破損品がある場合は ハイテックマルチプレックスジャパン迄ご連絡下さい。

・スペアパーツにつきましてはp58～60ご覧ください。

●推奨搭載メカなど

・送信機: Aurora9、または 4ch以上の他メーカーの送受信機

・受信機: Hitec OPTIMA 7 重量17g
Hitec OPTIMA 9 重量22g

Hitec MINIMA 6T 重量6.5g

Hitec MNIMA 6E 重量 6.5g

・RR 付属サーボ

●・ エルロンサーボ Tiny S ×2 エレベーター/ラダーサーボ Nano -S ×2
注意 各サーボは組み込み済みです。

・KIT Hitec推奨サーボ

● エルロンサーボ HS-81 ×2 エレベーター／ラダーサーボ HS-55 ×2

又は上記サーボと同等のスペックを持つ他社製サーボ

● 延長コード

- ・エルロンウイング延長コード 約40cm × 2
- ・エルロン胴体内延長コード 約30cm × 2
- ・エレベーター／ラダー胴体内延長コード 約60cm × 2

上記サーボ、延長コードの詳細なスペックは弊社HPをご覧ください。

<http://www.hitecrcd.co.jp>

・RR 付属パワーユニット

● パワーユニット 組み込み済み

・モーター: BL-O 3516-0850

スペック

RPM / Volt 850

Cells 2S to 4S LiPo

Operating Amp range 20A - 28A

Max Current (15s) 35A

Shaft Dia 5mm

Diameter 36mm

Lenght 37mm

Weight 130g

Power Output 350W

3000g.までの機体に適合します

・プロペラ: Solius 純正12×6 折りペラ

・スピードコントローラー MULTIcont BL 40 S-BEC (40A)

・KIT 推奨パワーユニット

No.332660 Solius power set

RR付属のパワーユニットセットです。

・KIT/RR 推奨バッテリー

● 動力用バッテリー: No. 157351 Li-BATT FX 3/1-2200(M6)

又は他社製3セル2200mAh リポバッテリー

● 機体データ

・全長 1100mm

・翼長 2160mm

・重量 無動力 曳航時 最小1250 g

動力飛行 最小1450 g

- ・翼面積 約 40.7dm²
- ・翼面積荷重(FAI) 最小30.7/35.7 g/dm²

● 接着剤

当製品の素材はELAPOR Formです。EPPに似てシンナー溶剤に溶けにくい性質がありますがわずかに溶けます。ELAPOR Form同士の接着には中粘度または高粘度の瞬間接着剤と硬化促進剤を使用してください。あるいはEPP専用接着剤を推奨します。硬化して固くなるエポキシ接着剤はあまり適しません。

墜落の激しいショックで剥離する場合があります。これを防ぐ為には接合面の表面を削り落とす意味でサンディングをして表面を荒らすと接着剤が染み込み、効果的です。硬化しても多少弾力のある接着剤の方が有効です。

ELAPOR Formと成型プラ部品の接着は中粘度の瞬間接着剤(プラ側)と硬化促進剤(ELAPOR Form側)が有効です。ELAPOR Form側は硬化促進剤を塗布する前にエンジンシンナーで表面を荒らして乾燥した後に塗布します。

注意:瞬間接着剤は目に入ると危険ですので作業中はゴーグルで目を保護してください。

本製品は組み立てキットとなっておりますので本説明書とイラストを参考にいただき正確に作成してください。

組み立て後は、箱絵を元にお好みでデカールを貼ってください。

当デカールは非常に貼りやすく出来ておりますが、曲線部はドライヤーなどで暖め伸ばしながら貼ってください。

また、キャビン部を塗装することでよりリアルに仕上がりますのでお試しください。塗装は通常のラッカー塗料が使用可能です。

以下は各国語版の説明書イラストに沿って説明します。(P28 ~33)

1・(Abb. 1~2) 機体付属品一覧

全体の構成パーツです。

欠品しているものがないか確認してください。

2・(Abb. 3) グラスロッドのカット

イラストを参考に69番、φ2.0mmと68番、φ1.3mmの両グラスロッドを適切な長さにカットします。

● メインフレームの組み立て

3・(Abb.4) グラスロッドの接着

イラストを参考に前項でカットしたグラスロッドを接着します。

※ φ2×326mmのロッドのみ、両フレームに接着します。

4・(Abb.5) モーターマウント及びキャノピーラッチの接着

イラストを参考にモーターマウント及びキャノピーラッチを接着します。

※ 22番のキャノピーラッチは両フレームに接着します。

5・(Abb.6) エルロンケーブルホルダーの組み立て

・30cm程の延長コードをイラストを参考にケーブルホルダーに接着します。

6.(Abb.7) エルロンケーブルホルダーの取り付け

イラストを参考にフレームの溝にホルダーを差し込み接着します。

※ホルダーはフレーム両側に取り付けます。

7・(Abb.8) ホイールフレームの取り付け

イラストを参考に胴体にホイールフレームを接着します。

8・(Abb.9) 胴体スパーチューブの取り付け。

チューブ内に60cm程の延長コードを通しイラストを参考に胴体に接着します。

※ リード線をしっかりと伸ばし、66番のチューブを回転させながらリード線を通して行くと入り易いです。

9・(Abb.10) ラダー、エレベーターサーボの取り付け

取り付けの前に各サーボのニュートラルを出します。次にイラストを参考に各サーボを胴体の溝にはめ込み、高粘度瞬間接着剤またはホットメルトボンドを使用し接着します。

※ 安全のため延長コードとサーボを接続したらテープで止めて外れないようにしてください。

サーボ横の円形のスペースにはサーボリードを収納できます。サーボが故障し交換が必要になった場合にこの予備のリード線を使うことでサーボの交換が容易になります。

10・(Abb.11) 胴体の接着

各モールドに合うように胴体を接着します。

このとき、スパーチューブの溝や他のモールド部などを320番程の紙ヤスリを使用し表面を整えます。

各モールドを整え、両フレームの間に隙間ができていないことが確認できたら、硬化剤と瞬間接着剤を使用し接着します。

11・(Abb.12) 水平尾翼固定サポートの取り付け

56番の水平尾翼固定サポートに36番のM5ナットをしっかりと差し込み、サポートを垂直尾翼の溝にはめ込み接着します。

12・(Abb.13) エレベーターリンケージの取り付け

33番、32番のリンケージパーツを初め136mmの長さにして取り付けます。リンケージは前項の59番のパーツの穴に通してください。

※ ここで、各サーボのニュートラル及び各動翼の動作幅を確認することを推奨します。

13・(Abb.14) 尾翼カバーの取り付け

イラストを参考に垂直尾翼のカバーを溝に合うように接着します。

14・(Abb.15) ファイバースティフナーの取り付け

前項でカットしたφ1.3mm×215mmのファイバーロッドを垂直尾翼の溝にはめ込み接着します。

15・(Abb16) テールホイールカバーの取り付け

イラストを参考に57番のホイールカバーをフレームに接着します。

16・(Abb17 18) ラダーリンケージの組み立て

イラストを参考にリンケージパーツを組み立て接着します。
リンケージは31番の短い物を使用します。

※ ここで、ラダーの動翼がスムーズに動作するようにイラストの破線部をカットしニュートラルと動作幅が正しいことを確認してください。

17・(Abb19) モーターの取り付け

付属のスクリューを使用しモーターを固定します。
モーターの配線がケースに接触しないようにコードをホットメルトボンドを使用しフレームの端に接着します。

※ モーターを搭載せずに無動力飛行も行えます。その際はNO・723470のトーイングシステムをスピナー先端に取り付けることでエアトーイングを行えます。

18・(Abb20) プロペラの取り付け

・80番のスピナーベースに82番の両折りペラを75番の(M3×20mm)のスクリューで固定します。

・イラストを参考に各パーツを取り付けていきます、正しく取り付けができたなら74番のナットでしっかりと締めつけます。
最後に77番のM2.5×12mmのスクリューでノーズコーンを取り付けます。

※ イラストでは記載がありませんが、72番とスピナーベースの間には8×16×5のスペーサーが必要です。
このスペーサーはスピナーアッセンブリーに付属します。

スピナーベースとノーズフレームが接触しないように1mm程のクリアランスを設けてください。

19・(Abb.21) バッテリーマウントの取り付け

先に25番のマジックテープをマウントに通し、モールドが下側になるように注意しマウントをフレームに接着します。

20・(Abb22) ランディングホイールの取り付け

43番のスリーブスペーサーをホイール両側に取り付け、38番のM3×30mmのスクリューと39番のM3ナイロンナットで固定します。

21・(Abb23) ファイバースティフナーの取り付け

前項でカットしたφ1.3mm×400mmのファイバーロッドを水平尾翼の溝にはめ込み接着します。

22・(Abb24) 水平尾翼固定プレートの取り付け

イラストを参考に58番の水平尾翼固定プレートを尾翼の溝にはめ込み接着します。

23・(Abb25) エレベーターホーンの取り付け

イラストを参考に取り付け向きに注意しながら、水平尾翼の動翼の溝に60番のエレベーターホーンを接着します。

24・(Abb26) 主翼スパーチューブの取り付け

主翼スパーチューブは既に工場出荷時に組み立てられています、
万が一チューブが奥までしっかりと入っていなかったら奥まで入れなおしてください。

25・(Abb27) エルロンスパーの取り付け

・イラストを参考に67番のメタルスパーをエルロンの溝にはめ込み接着します。
取り付け後、動翼の終端をカットしエルロンがスムーズに動作するようにしてください。

※ ヒンジラインが切れてしまったら、切れたヒンジラインに重ねて接着するか市販のヒンジテープで補強してください。

26・(Abb28) エルロンサーボの取り付け

主翼の溝にエルロンサーボをはめ込みホットメルトボンドを使用し接着します。

400mm程の延長コードを使用し、主翼端より46mm程余るようにしてください。

27・(Abb29 30) 主翼ルートリブの組み立て

・55番のリテーナークリップを2個、54番のルートリブにネジ留めします。
イラストのように8×2mmのOリングをクリップにはめ込み少しテンションを掛けます。

・完成したルートリブを向きに注意し主翼に接着します。

※ もし、コードが余った場合はルートリブのスペースにコードを束ねることができます。

この工程は両主翼に行ってください。

28・(Abb31) エルロンホーン取り付け

イラストを参考にリンケージパーツを組み立て接着します。
リンケージは30番を使用します。

ここでニュートラルと動作幅が正しいことを確認してください。

※ この工程は両主翼に行ってください。

29・(Abb32) スポイラーカバーの取り付け

61番と62番のスポイラーカバーを両主翼に取り付け接着します。

30・(Abb33) キャノピーの組み立て

イラストを参考にキャノピーの接着します。

※ ここで箱絵を参考にキャノピー一部を塗装することでよりリアルに仕上がります。

しっかりと乾燥した後、デカールを貼ってください。

最後にキャンピーを接着します、ここでは透明のコンタクトセメントで接着することを推奨します。コンタクトセメントとは皮革、ゴム、布などの接着に適したスチレン・ブタジエンゴム系接着剤です。

31・(Abb34) キャンピーラッチホーンの取り付け

イラストを参考にキャビンフレーム底部の溝にキャンピーラッチホーンを差し込み接着します。

32・(Abb35) 主翼の取り付け

両エルロンサーボのコネクターを接続し、イラストを参考に主翼それぞれのスパーを相手側のルートリブの穴に差し込みます。

正しくはめ込むことができましたら、主翼を固定するための56番のロッキングピンを胴体バッテリースペース上部の穴より差し込み固定します。

※ ロッキングピンの先端にタイラップなどを付けると外し易くなります。

56番のロッキングピンの単品での販売はございませんので紛失しないように十分ご注意ください。

33・(Abb36 37)

イラストを参考に水平尾翼を固定します、溝に合わせM5×35のプラスチックスクリューで固定してください。

エレベーターリンケージのL字をホーンに差し込み、ここでニュートラルと動作幅が正しいことを確認します。

34・(Abb38) キャンピーの取り付け

各配線が邪魔にならないように注意しキャンピーをしっかりと取り付けます。

※ キャンピーの取り付けが緩い場合はキャビン全体を輪ゴムで押さえて飛行中に外れないようにしてください。

35 (Abb39) RCシステムの搭載

推奨のメカを搭載していただき各サーボの配線を行ってください。

※ ESCの3つのコードを入れ替えプロペラの回転方向が正しくなるようにしてください。

注意

・サーボ接続の際は接続するCHとプラス、マイナスにご注意ください。
(サーボコードの茶色が-赤が+オレンジが信号線となります。)

・ESCを接続しモーターの動作を確認する際は安全のためプロペラを外してください。

・仮にESCが最スローを認識せずにモーターが回らない場合は送信機のTHRのEPAを調整し上下の幅を大きくしてください。

36・ 重心位置

重心位置は主翼付け根で前縁から70mmに合わせてください。
バッテリーを移動、又は(Add40)でバラストボールを入れ重心を合わせてください。

エルロン、エレベーター、ラダーの動作量です。

エルロン 上15mm、下8mm

エレベーター 上10mm、下10mm
スロットルエレベーターMIX 下1.5mm

ラダー 左右25mm

スポイラー 両エルロン上15mm
スポイラーエレベーターMIX 下2mm

こちらの数値は各舵のおおよその最大動作量を示します。
送信機のEPA設定を行い正しく設定してください。
EPAの設定でうまく調整できない場合は各リンケージを機械的に調整してください。

重心位置は主翼の前縁から70mmです。印を主翼につけてフライト前に確認してください。

販売元: **株式会社 ハイテックマルチプレックスジャパン**
〒133-0057 東京都江戸川区西小岩1-30-10 1F
電話: 050-5519-4989
受付時間: 月曜日～金曜日(祝祭日・夏期休暇・年末年始を除く)
10:30～12:30、13:30～16:30
お問い合わせフォーム: <http://hitecrd.co.jp/mailform/>

当製品は改良の為に予告なく内容を変更することがあります、予めご了承ください。